

# 区役所・鷺沼再開発 見直しニュースNo.2

宮前区役所存続と鷺沼駅前再開発  
を考える会  
080-6758-4252 猪俣  
2021年1月26日発行

## 署名5000筆を超える！

1月25日の時点で、「鷺沼駅前再開発見直し、区役所存続、二つの市民館・図書館」の署名は、区民の大きな関心を集め、5,125筆になりました。1万筆をめざして1月末を第1次集約として取り組んでいます。何と云ってもこの運動の先駆けの仲間「宮崎6丁目グループ」で1,321筆、平・五所塚892筆、新日本婦人の会600筆、鷺沼391筆、神木本町280筆と続いています。

「会」へは、毎日のように郵送で署名が届きます。12月初旬から1月25日までに88通約150筆の署名が届いています。署名とチラシを戸別配布した地域から返ってきます。宮前区全域から届き始めました。多いところは、宮崎地域21通、土橋地域18通、宮前平地域13通などです。

**1万署名めざし、第1次集約1月末。第2次集約2月23日。**

**2月25日、川崎市へ陳情署名を提出します。署名を広げるための署名の集め方。**

署名の集め方①隣近所に広げる。②宮前区だけでなく友人、知人に広げる。③仲間2~3人で一定地域に個別訪問して広げる。④受けポストになる人を決めて、そのポストの周りの地域に署名とチラシをホッチキスで留めて配布する。⑤戸建てマンションに管理人を通じて管理組合に署名の協力を申し入れる。⑥町内会、自治会へ申し入れて取り組んでもらう。⑦広げる核（人）をつくる。

## コロナ危機のなか、むき出しの東急の対応

「衣の袖から鎧が見える」ということわざがあります。うわべは取り繕っているけど本音がちらついているという意味だそうです。「会」との話し合いの有馬のアリーノの会場は、鷺沼駅前再開発準備組合の名前で借りられておらず、東急設計コンサルタントの会場名でした。話合いのなかでは、準備組合長の原組合長の名前はいっさい出てきません「コロナ危機で、タワマンを住宅専門にするか、一部オフィスを入れるか検討している。会社（東急）の上層部が最終判断することになる」と準備組合の準の字もでません。コロナ危機の需要がどこにあるか、東急が利潤確保のために腐心して、準備組合の衣も投げ捨てている様子がかがわれました。

## 川崎市の対応も重大

コロナ危機で、東急は会社の利潤確保のために計画をストップしてでも再検討をしているにもかかわらず、川崎市は東急が再開したらなんの反省もなく再開しかねません。鷺沼駅前再開発地区に計画している図書館計画をなんら再検討もなく川崎市の図書館計画の中心にしようとしています。コロナ危機のなか、計画は見直されるべきであって、後からでは取り返しがつきません。